大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正七年七月二十八日印刷納本 大正七年八月一日發行（毎月一回一日發行）

新眞婦人

八月號

第六十四號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤

東京麹町三番町三十番地(市ヶ谷見附內)

電話番町(六二二番
五一六番)

東洋內科醫院

院長 醫學博士 **高田畊安**

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱(從停車場半里)
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蘭（江木欣々女史筆）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（第六十四號）

八月號

本社の使命

▲肉體的には其の健康をすゝめ、精神的には其の自覺を促して、婦人の社會的活動をいよ／＼盛んならしめたいといふのが、本誌の目的、本社の使命であります。

▲創刊以來既に六年、此の方針で一貫して來ましたが、言論だけでは滿足せず、曩に「健康顧問會」を設立せしが、今又女子修養塾を開始しました（健康顧問、及び女子修養塾の規約其他は別項にあり）

▲自分共の言論をダン／＼具體化して行きたいといふのが、私共の常に熱望せる所でありますから、今後尙ほ續々本社の使命に從つて事業を起す考であります。

▲本社は主として、婦人の社會的活動を奬勵すと雖も、家庭生活を無視するものではありません。讀者諸君も知らるゝ通り、從來幾度、家庭生活の改善に就て論じたか知れません。今後も機會のある毎に、家庭生活の改善に就ての議論も掲載さるゝことでありませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰時に於ける英國婦人の活動

日本婦人の及ばざる點

西川文子

戰時に於ける英國婦人の活動に就ては、既に屢々本誌上に掲載したが、頃日バァバァラ マクラレン氏著「戰時の婦人」を讀みて、一層感を深くしたるとあれば、又「戰時に於ける英國婦人の活動」に就て書いて見たいと思ふ。

アグネス ボォスウ井ック孃

は千九百十二年にグラスゴー大學を卒業せし才媛であるが、千九百十五年軍需品製造工場で女工を募集するや、卒先之れに應募し、今では四千の女工の支配者となつて居る。

ドローシー ラベンスクロフト孃

は戰前より馬術に堪能なりし所から、戰爭開始と共に軍馬補充係となり、日々新馬を軍馬として役に立つ樣訓練しては、軍隊に供給して居る。

ダァマァ ドゥソン孃

英國に婦人の巡査隊が出來たのは、千九百十四年の八月、白耳義の亡命者が續々倫敦へ流れ込みし際、巡査の手不足を助けんとて、有志婦人が臨時に巡査補となりしに始まり、之れが卒先者はドウソン孃である。

レナー アシユウエル孃

は一隊の女優を引卒して塹壕を廻はり、到る所野天で芝居をして見せてるのであるが。孃は其の感想を問

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はるる毎に「私は今までコンナに悅こんで見て呉れる觀者を持たなかつた」と、感激に堪へざる面持にて談つて居ると云ふ。

ガスケル夫人

は、開戰後一週間と立たぬ中に、兵士に書籍の供給する必要ありとて立ち、今では非常に大きな仕掛で、塹壕の兵士に書籍の供給を爲して彼等の精神に必要な糧を與へて居る。

クリスリトベル　エリス孃

は、マルンの戰爭の時、自動車の運轉手缺乏するや、自から進んで運轉手となり、二十時間も休みなしに働いた程の勇氣ある婦人であるが、其後英國に歸りて婦人の運轉手養成に從事し盛んに女運轉手を養成しては軍隊に供給して居る。

日本婦人の及ばざる點

若し萬一英國が今日あるが如き立場に、日本が立つ場合が來たとすれば、日本婦人だとて、元より精神的には、英國婦人に負けぬ丈けの元氣を出すに相違ない。併しながら如何に精神的には奮ひ立ても、其の體力が奇蹟的に增進する理由なければ、今日英國の婦人がして居るが如き活動が出來ようとは思はれない。

軍馬補充係となり得る婦人が、日本に果して幾人あらうか。自動車の運轉手となりて、一日二十時間も働き得る婦人が日本に果して幾人あらうか。

他のことは兎も角、日本婦人の最も及ばざる點は、此の點ではなからうか。

婦人なるが故にする、理由ない遠慮

云ふまでもなく、何んとしてゞも、早く此の點を改良して、日本婦人も立派に英國婦人丈けの活動が出來る樣にしなければならぬが、ソレには何によりも先きに、「婦人なるが故にする、理由のない遠慮」を凡て打破しなければならない。凡そ日本位「婦人なるが故に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

する、「理由のない遠慮」の多い國はありますまい。之れを打破しなければ。日本婦人をして、英國婦人の様に、男子のすることを、何んでも代つてすることの出來る様にはならぬ。

一朝事あらば、婦人の力を借らねばならぬことは、分り切つたことであるのに、事情の切迫するまでは成るべく婦人を無視せんとするの風あるは、悲しむべきことゝ云はねばならぬ。

日本國の運命、日本人種の將來の上に、一層の祝福あらしめんが爲めには、何によりもさきに、有らゆる意味で、日本婦人の前に自由の天地を解放して、其の身體を強健ならしむると共に、其の精神を雄大ならしめねばなりませぬ。

危險區域にある婦人百二十萬

林歌子

我國に於ける公娼の數は四萬八千餘人。藝妓の數は、四萬七千人、旅館の數は四萬七千餘で、一軒に平均三人の女中が居るとすれば、其の數十四萬餘人で、之れも道德上危險區域にある婦人である。此の外に五十萬の女工も危險區域にあれは、合計百二十萬の婦人が險危區域にあるワケである。

拔手を切る事十哩

前號に於て、米國婦人の水泳振りを紹介したが、我國にも之れに劣らざる婦人がある。東京女子高等師範學校助教授高橋京子女史の如きは樂に五哩を往復し得る、水泳の名人である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子寶國有論

法學博士　牧野英一

（一）

私は十年前より子供の問題を法律の上から研究して居るので、折々其の事に就ての意見を發表した。然かる所或人が私の說を聞きて、君の說はツマリ子寶國有論であると名づけた。ソレで私も其の名を用ゐては居るが、少し變んな名である。要するに私の意見の要點は「子供のことは國家が今少し考へてやらねばならぬ」と云ふにあるのです。

（二）

國家から云ふと子供は實に大切である。其の大切なることは今度の戰爭でいよ〳〵著しくなつて來た。戰爭は結句人間の問題であるし、戰後の經營に就ても先立つものは人間である。

然かるに個人の側から云ふと、子煩惱の人は別として、普通ならば子供のない方がよい樣である。子供のない夫婦の太平樂なるに反し、子供の多い夫婦は、生活上ナカ〳〵の困難をせねばならない。

國家が子供の數の增へることと、其の質のよくなることを希望しながら、又實際に子供が成人するとこれを國家の用に供しながら、法律ではたゞ、刑法に棄兒と墮胎を罰すとしてあるのみなのは、物足らなくはありはせぬか。國家は子供の多き夫婦を何等かの方法で保護すべきが、正當なる行爲ではなからうか。

（三）

ソコでダン〳〵子供の保護と云ふことが、法律上にも現はれて來た。

●●第一所得税。佛蘭西では、一萬法の所得あるものが獨身である場合には二千法の税金を課し、ソレが三人以上の子供ある場合には無税にして居る。所得税の率

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、結婚して居ると否とで違ひ、又子供の有無で違ふて居るのは、獨り佛蘭西に於てのみならず、英國及び獨逸のプロシヤ、バヷリヤなどに於ても然かりである。元より所得税の率の違ふ位は知れたもので、斯くしても子供のない方が得だと云ふことになれど、所謂氣は心でソレによりて國家がソレまでに思ふて居ることが明かになると、人氣の上に影響する。又之れが自から他の法律に影響する。先達或所で此の事に就て演說した所、其の要點が新聞に記載された、スルト諸方から反響があつて、日本でもソウして欲しいと希望して來た。

●●第二母親の年金。國家にとり子供が大切であるものだから、一方に於ては棄兒墮胎を罰し、又他方に於ては親が其の子に對し養育の義務を盡さぬ場合、其の親權喪失と定めて、親から子供を取り上げることにしてありながら、實際に其の取り上げた子供を世話する仕組の出來てないのは手落である。ソレで米國では、元慈善團體でして居た、貧乏な母親の保護と云ふことを、法律で認めてやることになつて居る。即ち千九百十三年にイリノイ州とコロラード州とに、貧乏な母親には年金を與ふと云ふことに就ての法律が出來たら、其の年の間に他の十四の州に於ても同樣の法律が制定さるるに至つた。或學者は年金と云ふ文字が可笑しいと云ふが、子供を生むと云ふ大きな社會への奉仕に對して年金を與へると云ふことは、別に可笑なことではない。

●●第三妊婦及び產婦の保護。獨佛の法律では、出產の前後八週間は、婦人を使ふことはならぬと規定し、日本の法律ではソレが五週間と云ふことに規定されてある。而して其の休養の期間の生活費を佛蘭西では國家が出し、英獨では保險の制度でソレを給與して居る。

女の勞働者が保險に入つて居ると、其の掛金に、政府も幾分を加へ、資本主も幾分を加へて置いてくれて、出產の場合に給與せらる。

●●第四子福者保護法　以上丈けで滿足しないで、佛蘭西では更に子福者保護法を制定せんとして居る。此の法案は

夫婦揃へる場合には、子供が三人までは自分で世話せよ、四人目からは國家が保護してやる。妻君が亡くなつて父一人の場合には、二人ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

では引受けよ三人目からは世話してやる。夫亡くなつて妻君一人の場合には、一人丈けは引受けよ、二人目からは保護してやる。

と云ふ仕組なのである。

此の外に尚ほ獨身者に課税せよ、子なき夫婦には課税せよとの議論があり。更に佛國には、子供保護の立場から、選擧法改正の議論まで起つて居る。

●第五選擧法の改正。佛蘭西の人口は、四千萬で、普通選擧制なれども有權者の總數は千百萬人である。此の千百萬人中、獨身者と夫婦者で小供二人ないもの七百萬人。夫婦者で子供三人以上のもの四百萬人。現今の制度では此の七百萬人も一人一票、四百萬人も一人一票であるから、七百萬人が千六百萬人を代表して二人强で一票なるに、四百萬人は二千三百萬人を代表して六人に就て一票となる。子供の多いものは、頗ぶる不利益な立場に居るではないかと云ふのが、今佛蘭西で、子供保護の立場から選擧法の改正を叫べる人の意見の大要である。

白耳義では既に獨身者一票、夫婦者二票、女房なくも子供あらば二票、と云ふことを實行して居る。

●第六給料の子供割增。モウ一つ申上げて置きたいのは、給料の子供割增と云ふことである。獨逸の都市では、其の自治制の爲めに働ける下級吏員に對して、子供の多いものには割增金を與へて居る。クルップ會社などでは、子供が增へると家賃を減ずるとか、同じ家賃で大きい家を貸してやるとかして居る。之れはまだドコの國でも法律的にはなつて居ないが、之れも早晩法律的になりましよう。

歴史あつて以來の大事件

内ケ崎作三郎

英國もトウ〳〵婦人に參政權を許すこととなつた。ソコで英、米、加奈太、濠州、丁抹に於ける婦人の有權者を總計すれば四千萬人となることとなつた。之れに革命の結果參政權を得た露西亞の婦人二千六百萬人を加ふれば、世界に於ける婦人參政權者の總計六千六百萬人となつた。之れ實に人類歴史あつて以來の大事件と云はねばなりませぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二回婦人小供博覽會

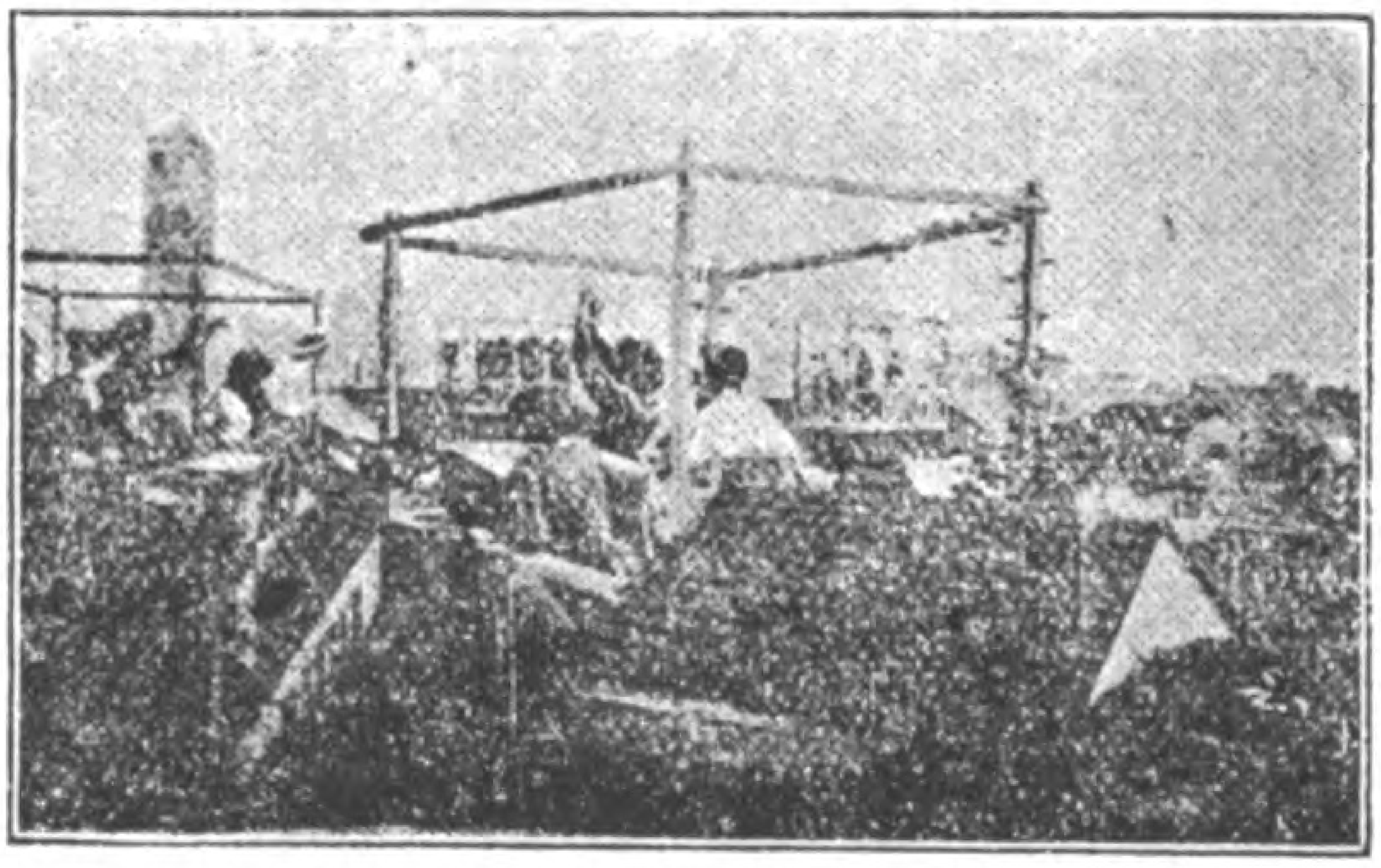
七月十四日(日曜日)の午前に寸暇を得て、私共も第二回婦人小供博覽會を見に參りました。

入場すると先づ、少し高くした所に、澤山腰掛を並べ、其の下を清き水が流れ、あたり一面に色々な草花などを植ゑてある所が眼につきましたが、急いで行て見ると向ふ一面、パノラマ式で京都鴨川の景が描かれてあつて、腰を掛けて靜かに其景を見て居ると、身恰かも鴨川の夕涼に出かけてゐるが如き感がしました。之れ丈けでも確かに入場する丈けの價値があると思ひました。

伊太利アルプス山に彈丸を運ぶ婦人

次に水車小屋が面白らう御座いました。立札に「此の小屋でほんとに米を搗いて居ます」と書いてあるが覗いて見ると、砂を搗いて居りました。

次には「歐洲戰爭と軍國の小供」「歐洲戰爭と婦人の活動」等の繪を、時節柄、大變面白く思ひました。此等は大抵既に一度西洋雜誌の寫眞で見て居るものでしたが、こうパノラマ式にしてあるのを見ると、全く實地其の境に臨みし樣で寫眞を見るとは、別種の感が致しました。茲に掲載せるは、幵を繪ハガキにせるもの丶中を寫眞版にしたものです。



飛行機襲來を報ずる婦人

急いで見て仕舞つた爲めか、此の外にはコレと云ふ程のものが目にとまりませんでした。

農業を見慣ふて働く婦人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廢物利用

廢物利用展覽會

去月廿日からお茶の水、教育博物館にて開かれたる廢物利用展覽會を見るべく、私は同廿三日に少し早目に中食をしたゝめて出かけた、大變な人氣で、大入滿員の盛況を示して居た。

一巡見て廻はる中に

△ジャガ芋の皮を乾かしおき、時々燃料に加へて、之れを用ゆれば媒のたまらぬこと妙也。

△雨傘の廢物利用　一ハ紙、小包物等の包紙　二、柄、火吹竹又は衣紋竹　三、骨、簾と蔓草の支竹、四、轆轤、石盤拭と雲脂取

△振り掛玩具　練物に羅紗紛をふりかけて造くりし玩具等が目についた、和紙古本より櫻紙を製造し、古麻網よりライスペーパー、ナフキンを製造し、鐵の板やブリキの屑からインキを造る順序など、工學上の廢物利用を示してあるのも面白かつた。

之れを見て歩く中に、廢物を一ち一ち直接に利用するのみが廢物利用でない、廢物をためて置いて、人にやるなり賣るなりするのが又之れ一種の廢物利用であつて、普通人には寧ろより多く此のことの廢物利用を希望すべきであるとの、感想が起つた。

同日午後一時から、館後の圖書室で、廢物利用の演說會があつて佐治實然翁と、河口愛子女史の演說があると云ふから、序手に傍聽して歸ることにした。

廢物と不用品の關係

佐治　實然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世に廢物ありや、なし。大きく考へて見ると、凡そ宇宙間に存在せるもの、一として其の使命あらざるものはない。此の毛一本、藁一本でも無用なものではない。けれども不用品はあるかと云へばある。

第一　に物によりては、其の用、不用が晝夜で違ふ。例へば電燈の如き、夜は必要なものであるが、晝間、つけもせぬ電燈が日本座敷に下がつて居るのは、至つて面白くない。ソレで私の家では電燈を晝間は、はづして置くことの出來る樣にしてある。

第二　物によりては用、不用が季節で違ふ。例へば男子の方ならば毛皮の外套、ソレは冬ならば必要であるが、此の暑さの時には不用である。尤も下さるものならば夏でも小袖と云ふこともあるが……

第三　薄ものを着て電車にても乘るとき、銅貨を二三十錢もたされると困る、斯かる場合には銅貨は不用である。

第四　物によりては階級で用不用が違ふ。例へば之れ位な土瓶や、コップは上流の家庭では不用品であらうか、下流家庭へ持て行くと立派に必要品になる。私の此の羽織は、今日は廢物利用の演說會であるから、廢物を利用して着て來たものである。之れ位の羽織は、皆樣方には、モウ廢物であらうが、私には之は必要品である。

第五　趣味の上から、或人に必要であるものが、他の人に不用品となるものも少なくない。ソレに就て面白い話がある。私の養子は騎兵中尉なので、私の家の門には騎兵中尉佐治……の名が出て居る。先達門前を通つた書生さんは、騎兵中尉にしては豪氣な家だと評した。二三日前に二人づれの職人は「恐ろしい鬱陶しい家だなあ」と云つて行き過ぎた。其の前に「コヽにもお墓がある」と云つて通つた子供がある、近所に青山墓地があるので、墓參りの歸りの子供なのであらう。又或子供は私の家を神社と間違へ拍手して通つた。同じ家でも考へ樣と見方で違ふから、自然其の用、不用も違ふて來るわけである。

斯く世に廢物はなけれども不用品はあるのであつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、家政整理の秘訣は、成るべく不用品をはぶきて、有用品のみとすることにあるのです。

即ち家政整理には、(一)陸軍の兵營に於ける如く家族一同、部署を定めて働くこと、(二)家の内を片附けるには軍艦に於けるが如くすること、(三)家を掃除するにはお茶席に於ての如くすることが肝要である。此の趣意で整理せる家庭にては如何なる場合にも不用品が目ざわりになる所にマゴ／＼したりはして居ないものである。

家庭の廢物利用

河口愛子

廢物の利用は勿論一家が氣を揃へてやらねばならぬが、婦人が主とならねばならぬのは云ふまでもない。而して勿論廢物を出さない様にすることが何によりも大切である。けれどもイクラ注意しても出ないとは限らない、其の廢物の出た場合には、必らず之れを利用せよ、而かも其の日／＼に始末せよ。次に考へねばならぬのは時間である、廢物利用には時間が入る、ソレに貴重な時間を潰してはせぬ方がよいことになるから、廢物利用を心掛るものは、其の爲めに要する時間を、別に生み出す工夫をせねばならぬ。手早く片附けるとか、早起するとかして……

凡そ廢物と云はるゝもので、利用の出來ぬものはないが、たゞ一つ、人間の廢物のみは利用のしようがありません。而して此の廢物も家庭から出でソレはお父さんよりもお母さんの責任であるから、御婦人方に、此の人間の廢物を出さぬ様に、注意していたゞきたい。

夏帯とお化粧

遠藤はつ子

帯が形よく結ばれましても模様が出なくてはいけません、又模様が出ても模様に關係なく結んではいけま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せん、景色でも船が池に浮いてゐるならばやはりそれを生かして結ばなければなりません、切角形よく結んでも後に飛でもない所に筋目が出來てもいけませんそれも注意しなければ。

帶の巾も昔は尺巾でしたが、今では八寸五分位です、夏帶などは狹い程形がよろしい。

夏のおたいこについては私は新發明をいたしました、しよい上げで汗じみが出來て困ります、アンダベルドなどもありますがやはり上の方は汗浸みておみ帶にしむ事がありますがそれを防ぎますには帶を少し下げて〆めて帶とお召との間へ帶上げの心をはだかで入れて了ひまして、細い紐で帶をしよい上げの上へしよい上げます、その上にそつと普通の帶上げをかけて下さいますと、決してしみは出來ませんし、形もよろしう御座います、夏向は少し下げ目に〆めてしよい上げも、低くした方が輕く涼しくもあり人見にも輕げによく見えます。

夏のお白粉も汗が流れておあごに横に筋が出ますがクリームでゑりに固くつければあんな事にはなりません、汗と共にお白粉がおよぎ出ません、先づハイジエニッククリームを極少量お耳かきに三つ位をのして了ひおのどは極丁寧にのみ込んで了ふ樣にクリームをおつけになるにははけでおつけになるとよろしい。手ですると手の脂でよりたがるものです。お脂の多い方はキウリ水かライラック水の化粧水でお顏全體のおあぶらをならしてお了ひになつてからおつけになるとよろしい。いきなりお白粉をつけると油の多い處丈け濃くついていけません。

テルカムかカシミヤ位のパウダをパフにつけてお顏につけお手にもその粉をつけパフで拂つて了ふとよろしい最後に又ライラックを小さい器に取つて水だけをつけてお白粉が落ちる程の度に浮いたらば取り〳〵、浮くにつれて取つて了ひますと、夏の日に外に出まして もあごに横に筋がついたり襟についたりは決していたしません。外に出てからは決して水などで洗はないで、油取紙に紙白粉でおちつけますと、脂丈け取れてお白

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

粉丈け殘つてゐますから大變重寶で御座います。

何しろ夏場は生地の下ごしらへが大切で御座いますお脂のつよい方はつよい樣に、クリームで取るなりセーム皮で取るなりして前のやうに遊ばすとよろしい。

年々申上げる事ですけれど日やけは時がたつと取れますけれど、水やけは中々取れません、其の水やけは水で洗つて暑い處を歩くとやけます。又召上る水もお氣をつけていたゞきませんといけません。

お茶をついで二十分三十分もお置きになりますと、お茶が黒くなります樣な水ならば、お茶でなく白湯で召上がつて欲しいと思ひます。くせのある水にはお茶を入れないで麥湯なり白湯で召上りませんと、しみになつて落ちませんから殊に未結婚の方は親御さんからもよく御注意して頂きたいと思ひます。

日やけも注意してゐらつしやるのとなさらないのとで大變にちがひます、眞白にお白粉でもつけて海に入つて出てからよく洗ふとか、家庭用の美顏術でも被遊てゐらつしやるとやけも少なくすぐはげます。

お顏のやけると同時にお毛も大變にやけます、お傘でも召して、鹽水の毛に入らぬ樣に注意し、海水でも被遊ば一週に一度は洗つて頂きませんといけません。

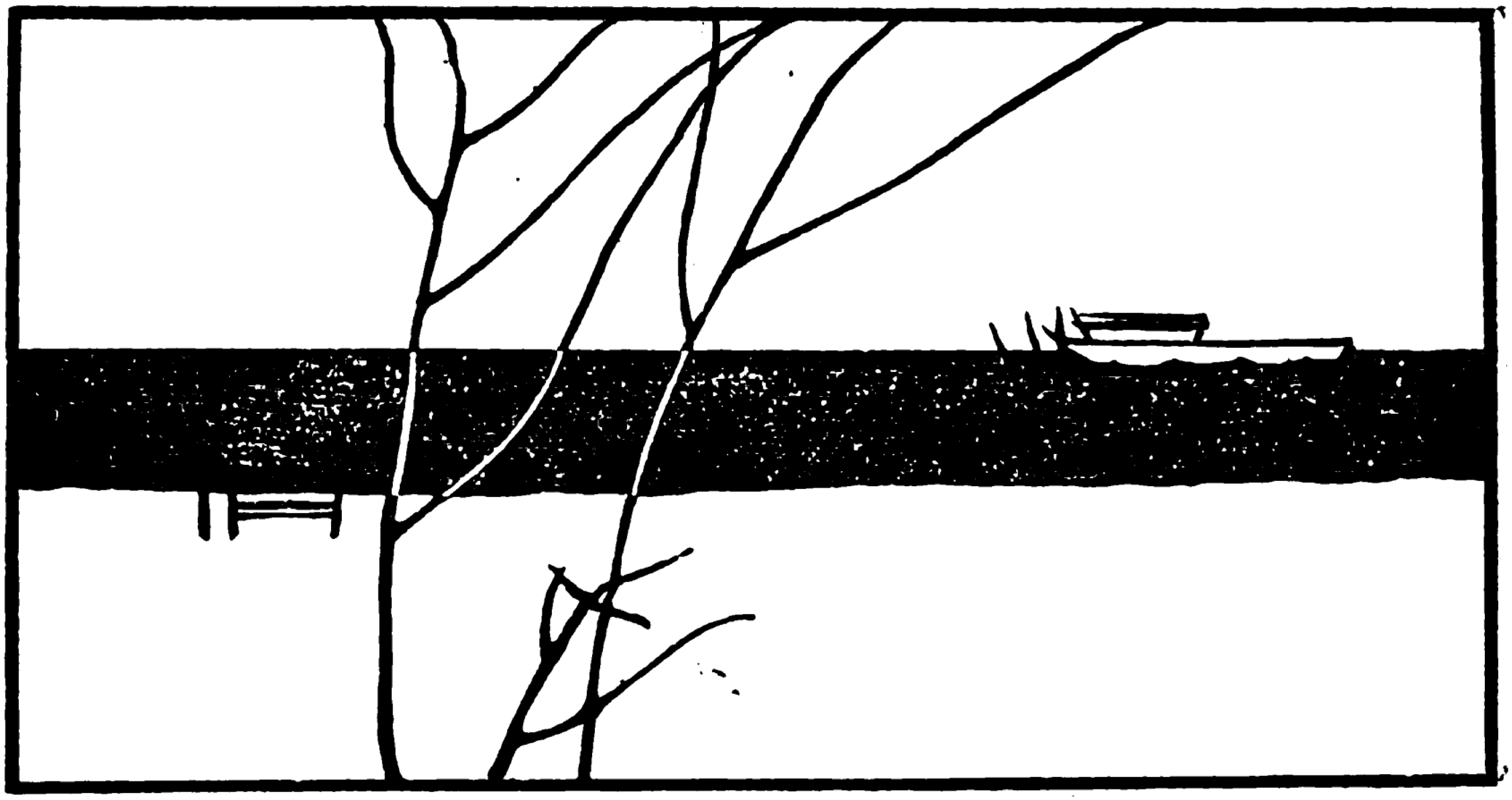
毛は洗つてすら〳〵しておきませんと、すくのに力がいつて生え際が大變はげます、で以前は上方の方と云へば生え際が薄くてすぐ分りましたが、此頃では上方でもよくお洗になりますからあまり違ひません。

汗じみて毛根が弱つてゐるから秋毛がぬけるのですから、夏場のおぐしの手當一つで秋毛のぬけるのを防ぐ事も出來ます。

鐵道旅行案内

鐵道院にて毎年編輯發行する「鐵道旅行案内」の年々其の面目を一新して、便利重寶となり行くのを見て、私は同院の努力に感謝せる一人であります。此の書は鐵道旅行案内と稱すと雖も、實際は其の名よりも廣く、凡そ旅客の知らねばならぬことは一切誌あれば、日本全國、何れの方面へ旅行するにしても、此の書一冊を携ふれば、あとで見殘しをして殘念がる樣なことがないでありましよう、此書には又、各地に緣ある詩歌俳句の外風景寫眞、廣重の畫の石版刷なども、各所に挿入しあれば、單なる讀物として見るも洵に趣味深きものであります。（定價一圓五十錢、東京日本橋本町三丁目博文館）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



雪女（上）

速川ゆくえ

暑い時には涼しい話が宜しうございます。

巳之吉は親孝行な子供でありました。歳は十九、顔は奇麗、仕事は樵夫、朝早くから山に行つて木の枝を拂ひ薪の束を拵らへます。それをお母さんが受取つて街に負つて行きいくらかのお金に代へて參ります。それはまづしい二人の生活を償つて充分でありました。

巳之吉の働らく山まではかれこれ二里位はあるかなければなりませぬ而してその途中の大きな河には橋を架けてもかけても春の雪解や夏の大雨の出水に跡形もなく浚はれてしまひますので水の神樣の御機嫌の直るまで不便な渡船で間に合せる事になつて居りました。

寒い冬の黄昏の事でございます。巳之吉は友達のようなお師匠さんのような茂作老人とつれだつて山から歸る途中大嵐に襲はれました。朝から雪模樣を氣にして居たのでしたが。こんなにひどくならうとは思ひもよらなかつたのです。北國の冬の嵐を御存じのない方は東京のからつ風と土埃のもつともつと烈しいのをまつ白に塗り代へて考へ直すとはゝそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の有様が髣髴されます。巳之吉たちはその爲に路を踏みちがへて渡場についた時には夜も大分更けて居りました。船はむかう岸に繋いである樣子ですけれど渡守は見えません、大かたもう家に歸つて一杯の濁酒に肱枕でいゝ氣な夢でも見て居る事でせう。歩きつかれ叫びつかれた二人は河岸に建つて居る渡守の番小屋に避難する外はありませんでした。それは二疊にも足らぬ小さな掘立小屋で窓もなければ圍爐裡もありません。二人は戸をしめて藁を褥に簔をかぶつて味氣なく横になりました。飢と寒さと勞れとにともすれば氣が遠くなつて行きます。吹雪はまたひとしきり烈しくなりました。梢を拂ふ風のお叫び。船にあたつてくだくる水の音。そのたびに小屋はゆれにゆれて今にも倒れそうな氣配であります。茂作老人は先づ寢入りました。巳之吉もふるへながら何時となく睡つてしまひました。

夜半ごろ巳之吉は雪のしぶきがはら〳〵と顏にふりかゝるように思つて眼をさましました。たしかにしめて置いたはづの扉が開いて雪明りがぼんやりと差し込むで居ります。ふと前を見ますとまあどうしませう。一人の若い女が、それは透き徹る程に色の白い若い女が巳之吉の顏に靜に息をふきかけて居るではありませんか。息は白く光つて煙のように思はれました。あまりの事にびつくりした巳之吉はさけばうにも聲が立ちません。女は顏に顏をすりよせてじいつと凝視ます。凄い中にまた一種のあでやかさがありました。やがて女の口角のあたりが少し崩れてほゝゑみの表情を見せました。而して巳之吉の耳にさゝやきました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「妾はね、最初あなたをいつも外の人にする通りにして上げようと思つたのです。けれどもあなたは大層若くて美しい。妾はあなたが好きになりました。ですから今度ばかりは見逃して上げます。もしもあなたがちよつとでも今夜の事を口外したら立どころに命はなくなりますよ。いゝですか忘れてはいけませむよ」

女はそう云つて戸口の方に出て行く様子でした。巳之吉は躍り上つて外を見廻しましたけれどももう影も形もありませむ。聞ゆるものは風の音。吹雪の砂がひやひやと襟元に泌み込みます。巳之吉はあはてゝ扉をしめ、あり合ふ板切れをひろつて閂をかけていさゝか安心しました。不思議は夢かうつゝか、茂作老人をさぐつて見ますとこれはもうつめたくなつて凍つて居ります。

＊　＊　＊　＊　＊

氣紛れな天氣は明くる朝忘れたような上機嫌でした。まつ先にこの小屋の戸をこじ明けてはいつて來た渡守は固くなつて冷へ切つて居る茂作老人とまだいくらか脈のありさうな巳之吉を見付け出しました。其中村の人達も集まつて來て心盡しの介抱の末巳之吉だけはどうかこうかあやうい玉の緒を取り止めました。

巳之吉はそれからひどく健康を害してしばらく起き上る事も出來ませんでした。あの夜中の事は無論おくびにも出さず頭のすみにこつそりと仕舞つて置きました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神經官能病と精神療法

西川光二郎

神經衰弱

世人は關節が痛むと直ぐ「ソレはリユマチだらう」と無造作にリユマチにして仕舞ふ樣に、疲勞の感が甚しくなつて來ると、何んでもかでも無造作に「ソレは神經衰弱だらう」と云つて仕舞ふ風がある。

所が他のかくれたる病氣の影響で、神經衰弱の時と同じ徴候の現はるゝことが、珍らしからぬのである。例へば硬化性動脈內膜炎にかゝりかけて、動脈が硬化し始めると、神經衰弱の時の樣な色々の徴候が現はれるし。ブライト氏病の起る前にも神經衰弱の時と同じ徴候が現はれるし。又糖尿病にかゝりかけし時にも、全く神經衰弱の時と同じ徴候が現はれる。されば無造作に神經衰弱として仕舞はずに、何にか、かくれたる病氣の影響ではないかと、調べられる丈けは、醫者とも相談して調べねばならない。

又一寸したことを心配仕過ぎて、身體の一部に過度の注意を拂ふた結果、噓の神經衰弱症にかゝれるものが可成に多い。普通に神經衰弱症と云はれてるものゝ中から、前の他病の影響で然かるものと、噓の神經衰弱症とを引き去らば、殘る所は幾許もないのである。

他病の影響であるものに對しては、此の事を知らしむると共に、其の病氣の治療を始むればよろしく、噓の神經衰弱症に對しては、患者に身體上なり、精神上なりのことを尋ね〳〵して「ハヽア、おれはコンナことを氣にして神經衰弱になつて居たのだなあ、何んだツマラない」と自覺せしむるがよいのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

舞踏病

此の病氣は心配した後や、勉强仕過ぎた後や、何にかに驚いた後などに起るものであつて、心身を安靜ならしめおきて、適當なる營養を攝取せしめ居る中に、自然に健康を囘復する、此の外には別に療法がない。藥を用ひることあるにしても「之れを飲んで居れば、治る」との暗示をきかして心身を安靜ならしむる上に效ある丈けのものである。

舌、手、足の調節機障害

舌の調節機に障害あるものは吃り、手や足の調節機に障害あるものは、手や足が動きにくゝなつたり、動かなくなつたりする。此の病氣に精神療法の働く餘地あることは、吃りは親しき友人と語る場合には、左程吃らずして、他人と語る場合に甚しく吃ることや、人が見て居ると、見て居ぬ時の樣に、甘く歩けず、甘く字のかけないのでも分る。

尤も鼻なり、咽喉なりに生理的の故障もありて吃るのである場合には、併せて其の鼻なり、咽喉なりにも療治を加へねばならぬのは勿論である。

吃りの療法に、舌端を上顎につけて喋べる樣にせよとか、舌を下顎につける樣にして喋べれとかと云ふ樣なものあるのは、患者の注意をコウせねばならぬ、アゝせねばならぬと云ふ所へ集注せしめて、喋ることに注意の集注を防がんが爲めである。又コウすれば甘く喋べれると安心せしめんが爲めである。コウすれば確かに甘く喋べれると、安心すれば、左程吃らぬものです。

物をよく嚙まずに呑み込もうとする場合、若しくば之れは食べられるか知らんと疑つて食べし場合に、呑み込みにくい樣に、神經的に、固形物の呑み込めなくなる病氣がある、此の場合には、食事の度毎に、先づ飴玉の如きを嚥下して、斯の通り呑み込めるではないかとの自信を得た後に、食事を始めると結果がよい。而して幾度も〳〵斯くして居る中には、何時の間にか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

病は治し去つて仕舞ふ。

震顫

手や足や頭の震ふて仕方のない病氣があるが、之れは慣れぬ辯士が演壇に立ちし場合、手や足が震ひ、興憤した場合に舌が思ふ樣に動かぬのと同じ道理から起る病氣であつて、ツマリ筋肉の働きを充分支配出來なくなりし結果である。此の病氣の療法としては、患者に此は官能的のもので、組織的のものでないと知らせて、安心せしむると共に、全體の健康增進を計る外にはないのである。

ヒステリーと精神療法

ヒステリーとは如何なる病氣なるか

或時或婦人が、「どうも私の腎臟に石が出來た樣であると」云ふて騷ぎ出した。色々の醫士が其の婦人を診察して一樣に「成程其の症狀がある」と診斷したので遂に手術することになつた、所が腎臟に何んの異狀もなかつた。其の一年後に、婦人は又其の腎臟に前同樣の痛みを覺へ出したので。前の醫者の診察を受けた。醫者は今度は經驗があるので騙されない。之れは確かに神經性假裝の腎臟病であると診斷して、其の療法を試みたら全治したと云ふ。

或兵士が腹の右の鼠蹊部に當る所が、痛んで仕方がないと云つて、或時或病院へ入院した。醫士はダンダン調べて、右の兵士の腹痛は二年前落馬した時からだと知つた。卽ち落馬した時に右腹の鼠蹊部をうち、ソコが痛むのを餘りに氣にした結果、斯く切りに痛むに

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

至つたものなることを知つた。ソコで神經性假裝の腹痛だと斷じ「心配するには及ばぬ」と云つて捨て丶置いたが、併しダン／＼患部が腫れて來たし、脈搏も變つて來たので、醫士も盲腸に異狀ある爲めでないかとの疑念を起し、大分蟲樣垂炎であらうとの診斷から手術をしようと云ふことになつた、さて手術して見ると盲腸に何んの異狀もなかつたが、他日の心配なき爲めに盲腸を取り去つた。然かるに其の六ケ月後又同じ所が痛み出し、今度は他の病院で手術を受けたが、盲腸の場所に何の異狀もなかつた。ソレから六ケ月して、三度同じ所が痛み出したが、此の度はドノ病院でも手術を拒んだと云ふことである。

斯かる神經性假裝の病氣の中には、ナカ／＼一通りや二通りでなく、幾十と云ふ程の種類があるのであつて、ヒステリーの如きも、此の病氣の中の一種に外ならぬのである。

此の病氣の治療法

●第一轉氣法　病氣に對する注意を他に轉ずることの病氣治療の上に必要であるのは、凡ての病氣に對して然かりであるが、殊に此の病氣には之れが大切である、物見遊山によりて暫時にても病氣に對する注意を他へ轉するもよろしく、手術なり、服藥なりによりて、斯くして居れば、心痛しなくても治るとの暗示を與へて、病氣に對する注意を他へ轉ずるもよろしい。

●第二體重を增す工夫。滋養食と運動とを奬勵して、患者の身體がダン／＼に肥つて來ると、患者の心に「成程、回復しつゝあるわい」との、自覺が日に／＼强よくなつて來る、而して患者の心の希望が日に／＼强よくなれば、其の健康の日に／＼回復すべきは云ふまでもない所である、ソレだから體重を增す工夫は何病の治療にも肝要であつて、殊に此の病氣の治療には大切である。

●第三心理解剖療法　患者の記憶を解剖しつゝ、ダンダン溯つて行く中に、患者をして「之れは此の病氣の原因だなあ」と思はしむるものに到着することが出來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る、之れに到着した上で「それだから、今度はコウ云ふ心持になりて斯く斯くせよ」と云つて、患者の心に安心を與ふれば、それは確かに病氣治療の一助となる。

之れを心理解剖療法と云ふのであつて、此の療法の發明者はフリユド氏である。天理敎なぞで「おさんげ」をなさいと云つて「おさんげ」を心身の健康囘復の第一歩としてあるのは、此の心理解剖療法と似て居る。

心理解剖をやつてる中に、患者は衣に對し、食に對し、住に對して、自己從來の不注意なりし點、其他を發見し、夫等に對しても改良の機會を握ることが出來る。斯かる副産物を得る點丈けから考へても、此の療法は有難い。

矢野元子女史

戸板女學校の戸板せき子女史の裁縫の早縫に於ける。渡邊女學校の渡邊校長に於ける如く、何によらず一人の天才をまつて一學校一事業は成立するものだとは嘗てから思つてゐました。而して凡てのさうしたものを調べて見たいと思つてゐました。此頃ミシンがメキ〳〵と發達してその刺繍の全盛はもとより和服でも何でも仕立らるゝにいたりましたのでその道の天才とも云ふべき方は誰方でしやうと、ミシン院の宗田先生に伺ひますと、まあ矢野先生でしやうと云ふ事でした、先生は明治三十四年頃、今から十六年前に渡邊女學校を卒業されましたが當時、秦倫子夫人が女子高師を出てシンガー裁縫院を創立されたので、(まだ我國にミシンの敎育のない頃でした)、矢野先生は其敎授になられたのでした、其の頃は生徒も十數人しかない頃でしたが先生は苦心に苦心を積んで研究されました、日本に於けるミシンの敎を受けたもので先生の敎をまたないものは一人もない位です、本年四月に滿十五年の謝恩會を開きましたが非常な盛會でした。

ミシンについての著書では、ミシン獨學び、ミシン刺繍獨學び、ミシン和服獨學び、など何れも秦先生の著になつてゐますが矢野先生の研究も大にあづかつてゐます。先生は和服、刺繍、洋服何れにも造詣深く、先生にとつては殆んど學校が家庭でミシンは先生の良人で初めから全く獨身でゐられます、ミシン以外には興味がないと云ふ程です。先生は伊豫八幡の生れですが幼にして父君に別れられ兄弟は皆醫師になられ今度兄弟病院と云ふのを牛込に創立されました。

何事にも進歩發達を計るには幾多の人の犧牲的觀念によつて、研究し、傳習し、宣傳する多大の犧牲を拂つて社會に紹介する人がなくてはなりませんが、全く矢野先生はミシンの恩人です。

一般にミシンと云へばシンガーミシンと云ふ様になつてゐますが、それはシンガーのミシンは非常に研究され高價にして精練なる機械を小さい部分的にも專賣になつてゐるもののみを集めて製作された程のものですから、どんな事があつても破損する事なく精巧にして堅牢である處から他のものを驅逐して了つたからだ相です。

麴町有樂町の同院では六月二十八九三十日の三日間展覽會を開かれました。いづれも同院の製作にかゝる美事なもののみでした、その一部は今回の婦人小供博覽會に出品されております

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

玄米食のすゝめ

玄米の白米に優る科學的説明

醫學博士遠山椿吉氏の説によれば

蛋白質が白米には（七、七二）だけ含まれて居るのに、米糠の方には（一五、〇八）即ち殆んど二倍から含まれて居ます。脂肪質はどうかといふに、白米には（〇、七七）米糠には（二〇、〇七）含有されて居ます。

一體、食物の含有する物の中で、一番大切なものは何であるかと申しますに、第一が蛋白質と脂肪質とであります。我々が毎日汗水たらして營々と稼ぐのは、要するに此の二つの養分を得やうが爲めに外ならぬのです。その他の澱粉質だの水分質だのは安價で幾らでも得られます。

次に白米と米糠に含む礦物質の比較を見ますのに、白米には燐が（〇、二九）しかないのに、米糠には（三、七八）もあります。又、鐵は白米には（〇、〇〇〇五）しかないのに、米糠には（〇、〇一）からあります、我々の身體を養ふ上に、此の燐と鐵も亦非常に大切なるもので、燐は殊に神經組織の養分となり、鐵は赤い血液の養分となるのであります。我々の體の神經と血液とを養ふ精分が、白米と米糠とでは右の如く莫大の差がある。

とのことであるが、此は玄米の白米に優る所以を簡明に科學的に證明したものである。

玄米飯は白米飯より美味なり

玄米飯を食べて見たことのないものは、所謂「食はず嫌ひ」で、不味からうなど〻非難し、試食さへも躊躇すると云ふ風の人が多いが、實際食べて見ると、白米飯よりも美味なるに驚かされる。

されば一度び、玄米飯を食べ始めしものは、再び白米飯へ歸ることが出來ない、之れは私共が經驗しての上で申すのである。

それに玄米飯は、白米飯程食べなくて滿腹するから米價暴騰の折りから經濟にもなる。尚ほ玄米飯にすれば、副食物も、白米飯の時程入らぬから、此の點からも亦ナカ〳〵經濟となる。

半搗米よりも玄米

中には玄米のよいことは分つて居るが、白米から一足飛びに玄米は無理だらうとて、半搗米を主張するものがある。私共も今まで半搗米を食べて來たが、最近に玄米を經驗して、玄米の方半搗米より食べよいことを知つた。

以上の理由によりて、皆様に、玄米食をお勸めする。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

砂糖の健康に害あることは

云ふまでもないことであるが、ソレにも係はらず砂糖消費高は年々增すばかりであります。而して糖尿病者と消化器病者の數は、砂糖の消費高に比例して增して居ります。

併し日本人の一年一人平均消費高は尙ほ十一斤でありますが、英國では約七十斤、米國も約七十斤、獨佛では三四十斤も消費して居ると云ひます。今に日本もソウなるべき傾向があります。

ソウならぬ先きに、各家庭で成るべく砂糖の消費を制限したいものであります。母親は小供に飲酒の習慣をつけぬ樣、注意せねばならぬと同樣に、砂糖ずきにならぬ樣注意することが肝要であります。

澱粉は口中で直ちに砂糖に變化しますから、健康を害する危險を冒してまで別に精製したる砂糖をわざわざ食べねばならぬと云ふ必要は、絕對にないのであります。

家庭健康顧問會趣意書

私どもの專門にして居る家庭問題の研究中、私共は日本の家庭に、如何にも病人、虛弱者の多いのに氣がつき、今更の如くに驚きました。而して又此の家庭に病人や虛弱者の多いことが、如何に家庭の圓滿を妨害して居るかと云ふことにも考へ及びました。斯くて健康に關する知識の普及を計ることは、目今の急務であると感ずるに至り、此の事をも『新眞婦人』の一使命たらしめんとして今回家庭健康顧問會を發起しましたのです。されども微力なる私共の力のみにては、此の會の目的を達することが出來ませぬから、諸先輩の御贊助を仰ぎたいと思ひます。幸ひ諸先輩の御贊助を得ば、獨り私共の悅のみではありませぬ。

會員は何時でも健康に關する質問を爲すことが出來ます。

本社は贊助員たる諸先生と御相談の上、御質問に答へます。而して會員の義務は本誌を購讀して下されば宜しいのです。

贊助員御芳名（承諾順）

醫學博士　石川貞吉
醫學博士　高田畊安
ドクトル　中島謙太郎
ドクトル　志村誠麿
至誠病院長　吉岡彌生
加命堂腦病院長　奈良林棻峯
青山腦病院長　齋藤紀一
鐵橋病院長　大石貞夫
女醫　風間種子
女醫　杉田鶴子
東京衛生園部長　山下松子
醫學士　加川信憲

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

水郷より

小村なつ子

夏が來ました、廿七八になつてもまだ小姑として家にある。さる縁遠い姫の花櫛のやうな藍色の紫陽花が咲く其夏も、はや更けました。男の兒には外套を女兒には蛇の目を持たせて出す樣な日には、殊に、この花の色が榮えて見えます。所詮は片親で育つた氣の弱い自分を象徴した如くに思ひ爲されて、異常な愛着をもつ樣になつたのも、私の歳が三十の上に出て、而して夫の外泊が氣に懸らぬだけにあるものを摺り滅らされてからの事でした。

以前は牡丹や藤を好んだ時があり、秋草の珠をいつくしんだ頃もありましたが、年や境遇によつて、好き嫌ひの變つてゆくのも否み難い事であります。但、餘りにいろ〳〵の驚きに會ふたびに、すなほさや、やはらかさが亡ぼされるといふことは、眞實傷ましい事實であります。恁うした心から、切ては子供達には何にも知らせたくありません。

さてこの花がまだ自分の表想を敢てするすべを知らなかつた。三四月の頃から、私は朝に夕に瞶めて來たのでした。

『私を見て下さい』と多くの花は、香や彩をもつて強く自身の存在を表示します他に、莖をぐんと伸長させて、人の注視を集めます。この内省的な淸楚な色を有つたあぢさゐまでが圓形の熟するにつれて、其容姿をも調へて行くのです。それ故、大抵は不便な一隅におかれても人の目につきます、勝れたものは強いて人を押し退けずともよいと見えます。

わたしの子供達の頭髮や音聲やが人目につきだしたといふことは、母としての私には驚きに加へて、甚だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しい不安で厶います。『持たぬ袂の凉』とやら、まだ十一と十三との幼いものと、母親の張詰めた護り心を裏切るのは此頃の夕凉の自分達に射かける衆目、分けても青年達の鋭い凝視であります。去年までは何も心つかずに、本當に心易々と三尺を締めさせてゐたのに急に學校の規則として帯をさせねばならなくなつたり、柄のよい長袖が着せたくなつたり…かくて納凉も暑いことになりました。

とはいへ狹い家へ彼らを殘して、一人ぶらりと潮に浸つてゐる事の能きぬ私といふ女には讀みたいものをも積み重ねておいて、醜さをも厭はずに彼らの後から歩いてゆきます、物質の上に足らぬ事を知らぬ人々でも、こうしておとろへてゆく女の心にはたいした、變りはあるまいと思ひます。母性といふものをある一方からみたらば傷ましい極みのものでせうね。

○

慵い日がつゞきます。子供達が胸に絡はつたり背中にはひ上つたりしてゐた頃には、よく泣くことができました。其麽時には、どうか早く成長させて…と甘い涙に醉うてゐたのでしたわ、今思ふと。並んで歩く時には私の肩よりも高い上の子は、殊に幼い心持を失はず、おやつなど一ばんよくねだるのですが、然し皆それ〴〵に個性をもつて、私なぞとは全然、異つた希望を抱いてゐるやうです。

夫れはほんとうに結構な事で、そうする爲に何ものをも惜しまず爲て來たのですけれども、私の心は何故か戰慄きます。眞實の苦しみとは斯うした母親のありのまゝを言ふのではないかと、近頃考へる樣になつて來ました。

永い今日の日も暮れかゝりました。親切な子供達は母の爲に扇いだり撫たり、いろ〳〵のことをして呉れます。以前私が彼らに爲てやつた樣に…。それは私にとつては極めて寂しいことで厶います。悲哀や寂寥やを運ぶ何者も其處には見出しえませんけれども私の心は沈んでゆくのみです。強く深く胸底を絞るやうな壓力が脅えた私の心を捉へます。もとより形のない入

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道雲の影のやうなものですから‥‥。泣かれるやうな悲しみでは無論ありません。

あぢさゐも終りが近づきました。いくら好きだからといつて造花にして塵にまみれさすのは傷ましい事です。窶れた、色の褪せた一つ一つは、折々に取り除いてはゐましたが、どうしても終焉の時が近づいて來ました。すがれゆく花を眺めるのは無情にも不禮にもなりますけれども、華やかな時ばかりが、かれらの生命ではありますまい、あらゆるものは滅びて了ひます。自分を燃燒させないものに何の權威がありませう。何の力、何の美しみがありませう。美は悲しみの燃燒ではないでせうか。

とは言へこの惱みうづきはどうすることもできません。

――さん、あぢさゐは逝きます。子を育てつゝある女の鬢には三筋二筋、光るものが見えて來ました。永遠にかへらぬ水音が垣の外にきこえます。

あぢさゐはこの水郷にはまことに似つかはしい花でしたが‥‥また來年の梅雨期に大きい藥玉をつけるまではあるか無いかに庭の隅の光線の少い濕つた土の中で偉大な沈默をつゞけてゐることでせう。

雁風呂

昔、奥州南部の外ヶ濱では、春ももう終らうとして、鳴く音の淋しい雁の群が悉皆去つて了つた頃になると、海邊に落ち散つて居る小さな木片を拾ひ集めて、それで風呂を焚いて旅人などに施す風習がありました。‥‥‥‥

其の木片は雁が來る時に、疲れると海原で休む必要があるので、銜んで來たものであつて、歸る時に彼等は又外ヶ濱に集まつて、件の木を口に長い旅路に上るのですが、其時屹度幾何かの木は其の儘其所に殘される。それは途には同じく翼を連れて渡つて來てから、半歳の月日の中に、怖ろしい人間の手に陷つたり、重い病に罹つたりして、其の行に洩れるのが出來るからなのです。‥‥‥‥

それを里の人等は憐れんで、さては其殘された木で風呂を沸て、人々に施こしたりして供養の印とするのでありました。(鐘情夜話から)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三日記者（下）

高橋千代壽

「虚僞であつても貞女であれとはどういふ意味なんです」

友は清子の鳥渡洩らした貞操論が腑に落ちぬらしく訊いた。

「それはね、つまり良人を愛するから貞操を守るのでなく、貞操を愛するから良人に貞操を立てるんです、尤も他人はね、そんな貞操は、價値がないといふかも知れません、併し價値はなくとも虚僞であつても、不節操な女より勝しぢやありませんか、世の中には義理や人情の柵みとなつて愛なき良人に貞操を守つてる女が幾萬あるでせう、いかに虚僞より眞實がよいとて、こんな女がすべて虚僞をぬいで各々自由行動とつた曉はどうなるでせう、家庭の波瀾引いては社會の秩序紊亂、否、風紀の紊れることは明かぢやありませんか、ねえ」

途に乘つて饒舌り續けた清子は、ほつと息を入れつつ自分ながら、これ程極端に個人の幸福を無視した言辭があるだらうか、少し言ひ過ぎたなと思つた。けれど從來の結婚制度及家族制度を根據とした彼女の持論であつた。友は彼女の言辭の節々を自分で釋解するらしく返辭もせずに凝然と清子を凝視てる樣子が彼女には薄氣味惡かつた。

「まだ確定つたわけではありませんから」

つかぬ一言を殘して、座蒲團を滑つた。

時雨もよひの空を氣にしながら、アルパカのコートに洋傘を持つて家を出た。道々かつて寫眞で知つた高山さんの顏を彼れかこれかと、友人の誰彼に比べて想像した。初對面の挨拶も至極丁寧であつた。思つたより美しく、それに言語付のキビ〳〵したのが清子には

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貞一丈は紹介者たる一言の説明もしてなし為、何だか猜疑の眼を以つて見らるゝ心地して、名狀することの出來ぬ一種の侮蔑を感じた。高山は清子がどの位まで自分を知つてるのだらう…？　それが疑問であつた。

「保ちやん――紹介者――達が主婦となつた現在を如何に見てるだらう…？」

それも訊きたいものゝ一つであつた。高山は成丈要談をさけるらしく、清子にはいらぬ家庭向の談話のみきかされた。

「此間もね、襦袢縫つてますと保ちやんがそんなことするより原稿かいた方がよほど經濟だつて申しますの」

「雜誌は最うお止しなさいましたの？」

「エヽ、止しました」

「…………」

「此頃はすつかりお神さんになつて了つて、これからはお店の方へも手傳ひに行かうと思つてますの」

いかにも世帯馴れた世話女房らしかつた。これがつい此間まで筆一本で生活して來た人とは、どうしても受け取れなかつた。唯のべつに吹かす巻煙草丈が僅かに過去の名殘りを止めてゐた。

「保ちやんは私をどう思つてるでせう？」

「大變歡迎してらつしやる樣で御座います」

清子はすぐ自分の返辭の不適當なのに氣付いたが、こんな場合何といつてよいか、鳥渡見當がつかなかつた。高山は得意さうに其鈴張の眼を輝かせながら、無意味に女同士といつた調子で、淳々と妻の任務、母の責任を說いたが、清子には皮肉られてる如くきこえて、不愉快でならなかつた。社から依賴された要事抔はどうでも好い――彼女はさう思ふと早速暇をつげ樣とした。

「好いぢやありませんか、今に保ちやんも歸へてまゐりますから」

高山は一生懸命引き留めたが、清子は妙に居辛くつて無理に坐を立つた。電車に腰を下すと、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「なんて嫌な商賣だらう、
彼女は忌々しさうに呟いた。記者といふ職業を、面白く樂しく愉快なものとのみ確めてた彼女は、自分の無知が無暗に恥かしく自ら嘲り笑つた。
不圖三丁目で文展歸へりの友を見つけ、突然左手をかたく〳〵握り締めた。
「感謝してよ、止しちやつた。」
友が怪訝な眼付で清子を見た。
「どこへいらしたの？」
「高山さんへ」
「さう」疲れた氣のない返辭。清子は何にも話したくなかつた。唯斷念したこと丈告げて、友を安堵さした。
「永久に親友だわね」
側の友の手をぎゆつと握つたら、向ふ側に腰かけた茶の中折冠つた濃い髭の若紳士が、笑ひたさうに見てゐたので、慌てゝ顏を背けた。朝の事を思ひ出すと、猫の眼の樣な人の心の變化を今更の樣に、不思議に思つた。

取敢ず岡本に斷念報告の電話かけると、何故です？と問ひかへされて、
「今日高山さん訪問して嫌になりました」
「それぢやあんまり貴女が小さいぢやありませんか」
「小さくつてもよ御座んす」
我ながらいしくも言つてのけた。
來る電車も來る電車も滿員で、約束の九時は疾うに過ぎた。清子は氣ばかり焦つて、やつと乘りかけた電車からは、
「最うとても乘れませんからお後の方は、どうぞお下り下さい」
車掌の一言に又振落された。
朝つぱらから縁喜でもない——彼女は不平の遣り場がなかつた。丁度十時前十分着社主幹の顏が見えぬので、「まあよかつた」と思はず口をついた、火鉢を圍んで他の記者を相手に、
「みんなが墮落するから止せつて言ひますから、止さうと思ひます」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「なに止めるのですつて？　でも橋田さんは最う貴女が承諾したといつてゐましたよ、頗る手腕家だつて社ぢや大評判なんです」

大評判？　と云ふ言辭が變に清子の心を騒がせた。驚異の瞳をみはりながら、澤田さん――女給仕――が汲んで呉れた澁茶を默つてすゝつた。橋田は同郷の者で彼女の學生時代をようく知つてゐた。いつも首席であつたことを吹いたのだなあと、獨り心に首肯いた。

「貴女は高山さん御存じですか」

「エヽ」

「僕は彼女の弟と早稻田で同級でした」

「さうですか」

清子は今初めて名を知つた。田村が文科出といふことに少なからず、興味を引いた。

「そして何か御かきになりましたの？」

「かくもんですか、あんなものかいたつて飯が喰へやしませんもの」

田村は一點の未練もなかつた。やう／＼談話の糸口を得て、ぽつり／＼文學談に耽つてると、どしん／＼と梯子段昇る音が聞えて、橋田が這入つて來た。清子は同じ言を繰り返すと、

「他人が墮落するといつたとて貴女が墮落しなければよい、又他人が止せといつたから止すなんてそんな意志の薄弱なことでどうします、旦那はどう言ひます？」

「主人ですか、あれはどちらでもよいと申ます」

「ちやおやりなさい、僕はね、今迄女の働くのが大嫌ひぢやたんです、ところがね今度の歐洲戰爭で初めて女を働かせねば損だと氣がついたのです、日本がいつ獨逸や佛蘭西の樣な境遇になるか知れません、其時どうします僕もそれでこれから女房を働かせ樣と思つてるのです、貴女抔は旦那がいけないといへば仕方がないけれど、好いといふなら立派に働く頭腦と餘暇とを持つてるのですから」

力の籠つた語調で、懇ろに勵ました。

「尤もね、いやなら雜誌の方止して、單行本かきませんか、資本はいくらでも出して上げます、出版と販賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は僕の方で引き受けますから、貴女はかいてさへ呉れゝば好い、其代り種類やかき方は此方から注文しますよ、利益は四分六分でも五分五分でも分けませう、屹度儲かりますよ」

橋田は清子の才能を誰よりも信頼してゐた。私立大學をぽつと出た若い記者より、手のよく廻はる彼女を利用して少し儲けてやれ――かう打算的に考へて、甘言を以て誘つた。けれど決して惡意からではなく、双方の利益ではないか――さういふ好意からであつた。

清子は呆れた。自分にそんな信用のある喜びよりも、自分達の手で捏ね上げた書籍で、何千圓といふ大金を儲けんとする橋田の愚が不審でならなかつた。

「遣りたいとも思ひますけれど、生活費には困らぬと思ひますと、つい億劫になりまして」

「いやそれぢや止して下さい、やりかけて中止されては僕の方で困りますからね」

口はきゝつゝも瞳は絶へず机上の書類の上を走つてゐる。清子は好いお鬚だ、と短く刈り込んだ濃い鬚に眼をつけた。

「時に高山さんの方どうでした」

チラリ眼鏡が此方向くと同時に、華奢な両手を火鉢に翳して、

「高山さん？　あの方最うすつかり奥様らしくなつて被居います」

清子はわざと談話をあらぬ方へ向けた。

「美人ですか」

「エヽ、そしてね、純粋の江戸ッ子でせう、言語使ひがキビ〳〵して、そりあ感じの好い方よ」

「さうですか、して例の一件はどうでした」

「あれはね、保ちやんがお留守で要領得ませんでした」

清子は自分の不始末を、紹介者にかけた。

「最一度行つて呉れませんか」

「さうね」

内心嫌と思ひつゝも、無下にもいなみかねて、

「エヽよ御座んす」

うつかり口を滑らした。此の一言が後日いかに清子を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

禍ひしたかは、神ならぬ身の知る由もなかつた。
越えて一日彼女は前約により社から廻はされた人力車に乘つて、會社を三四訪れた。それは重役に會つて雜誌の材料をとる爲であつたが、序に決算報告の廣告もとつて來いと、二重の要務を負はされてゐた。〇〇セメントは、
「まだ支店長は御見えになりませんが、どんな御要事でせう?」
事務員の挨拶は馬鹿に叮寧であつた。明治〇〇は受付のつゝけんどんな挨拶が癪に障りながら、これも修業の一つと辭を低うして依賴すると、いやといふ程彼女の顏を眺めてさて名刺を受けとつて、ばたん〱と八ツ折草履の音を立てゝ、聞えよがしに、
「經濟雜誌に女の記者は珍らしいな」
引き返した其返辭は無論多忙の理由のもとに見事面會拒絕、清子は生れて初めて、玄關拂ひの厄に會つた。覺悟はしてゐながらも車上に急ぐ彼女の顏は熱つてゐた。

丸の内の廣い通りを車上に搖られながら、今出て來たばかりの〇〇會社の薄暗い應接所のお粗末と廿二貫はたつぷりありさうな、重役の身體とを頭に浮べつゝ、かくべき記事の題目を考へゐた。どんと人力車が止ると、
「御苦勞樣」と輕く車夫に會釋して靜かに梯子を昇つた。美味しくお晝飯を頂きながら、
「玄關拂ひ食はされる位いやなものはありませんね」
誰に話すともなく、無意識に口をきくと、
「僕達は、習慣になつてますからね、會つて吳れる方が、不思議なんです」
右側の顏は知つてゐれどまだ名前知らない、赫ら顏のいやに頭髮をてか〱光らした、若い記者が白いハンケチで口のまわりを拭きながら笑つてゐた。
それつきり清子は家庭の人となつた。玄關拂ひ食はされた時の不愉快さと、ある一部の人士を除く外社會の全般が、婦人記者なるものを丸で維新前の穢多の如く卑下してるといふことが彼女の小さい收穫であつた、過去一週間に於ける失敗や經驗を顧みて、擽い樣ににつとさびしく微笑んだ(終)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

縁（下の二）

山本勇夫

給金の出る雇婆さんを早く歸したい倉田の家では、結婚を急いだけれど、主人の方に代りが來ない女の方では、をいそれとは行かなかつた。その女の主人といふのが、植木職の兄きの得意先でもあるので、尙ほ更ら無理暇をとる事も出來なかつた。

「奉公に遣つて置くと、かう言ふときに不自由なもんさね。」

延びてゐる間に、折角纏つた縁談がもしか破れるかと掛念してゐる私の家の者等と一緒に、雇はれてゐる者の虐げを私は事新らしく呟いたりしてゐた。が、此の縁談が初まつてから此方、倉田の家に何かと出這入の數が多かつた弟と私は、思つたより汚い面倒らしい家庭なのに驚かされた。中風症で寢てゐる倉田の母親は、便所にも行けず、口も利けないながら、お人よしの親父やぐうたらの倉田よりも心丈けは明瞭してゐるので、家政の切盛を臥ながらやつてゐるらしい。神經ばかり昂ぶつてゐるので、細かいことにまで呟々と苛立つそのやかましさつたらないのであつた。

『溫和しく寢てゐるんならまだいゝけれど…そのくせやかましいと來ちやあ堪つたもんぢやないね。病人の世話許りでも一通りぢやないのに……』

倉田の家に、ついぞ嫁の世話をする者のなかつた理を、殊更思ひ合はされて來た母は、嫁入してからの、女の難義を思ひ遣つたりして、來ない先から居つくか何うかを頻りに心配してゐた。倉田の人爲がしつかりしてゝもゐるならまだしもだけれど、まだ彼が賴りない人間であることを思ふ私等は、嫁にならふといふ女が氣の毒にも思はれないではゐなかつた。女の親元

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が困窮してゐるのと、女の容貌がよくないのと、永らく奉公してゐた女だといふのを頼りに、大概なら辛抱して呉れやうことを祈らないではゐられなかつた。この前弟が話しかけた方の口が破れたのも、さうした彼の家庭を先方で探り知つた爲では無いかとも考へられたりしてゐた。

たゞたゞ斯うなつては、倉田の方の缺點をつくろつて、結婚をすまして了ふより外はない。

さう思つて、頻りにあせつてゐる母や弟の態度が、私の良心を輕く刺してゐた。が、此際倉田の家に同情を多く以てゐる私は

『倉田の方さへ都合がよければいゝとした頭腦でやる他はないんだ、先方は何うでも。』と、さう言つて自分を誤魔化したりしてゐた。

本人の倉田がかつて理想としてゐた女より、ずつと低い女を娶るのは自分の本意ではないが、兩親や私等のすゝめだから爲方がないといふ樣なことを、かうなつても時々漏すのにも、私の心は動かされないではゐなかつた。――側からの私からは、男女とも丁度いゝ釣合とも考へられるが、もつといゝのが欲しいに相違ない――と、思はないでもゐられなかつた。『贅澤を言つたつて、自分と相談して見るがいゝせ。』と、こつぴどく倉田をたしなめもしたが、現實の生活に負けて、理想を壞はされて行く、人間の生活が、日常の自分の生活にも思ひ合はされて儚く思はれてゐた。

しかるに、思つたよりも數日後れたけれど、倉田の結婚は無事にすんだ。弟一人が仲人の座に連つて、雙方の親類が一人宛彼の家に集つて、ともかくも盃事を目出度すました。二階の、たゞ一人の子の祝儀の座にも出られないで、階下で寢てゐた彼の母親は、弟に手を合せて好意を謝したと、さゝやかな料理の折を携げて歸つて來た弟は、ほろ醉氣嫌で話した。

『まあ何にしろよかつた。』

重荷でも下ろしたやうに、喜び乍らも、嫁が、あの家を見たり病人の母親に接したりしたら、何うだらふかと、私の家では心配し乍ら、倉田が來るのを待つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐたが、婚禮した翌日は來なかつた。夜になつてから、彼が役所にその日は出勤したときいたので、私等が尚更心配した。――たとへまだ雇婆さんが殘つてゐたにしても、頼りにする倉田と父親が出勤して了つて、病人一人を翌日から預けられては堪らない――と、さう言つてゐた。平常なまけ休みをしてゐた罰が、かうした日に休めない樣に報つて來たのだと、今更のやうに彼のだらしのない以前の行動を、衆して言ひ合つたりしてゐた。

『行くまへに、女にもよく頼んで居て貰ふ樣に言つてはあるが……』

母は別狀もなからふと口に言つても、後が何う成つたか、それをきかないうちは氣になつてならないらしかつた。

『彼奴を一つうんと冷かして遣らふか。』

さう言つて待つてゐた私は張合の拔けるのを覺へた。その夜、弟の後に蹤いて、倉田の家の前に樣子を見に行つたが、雨戶が閉つてゐた。

『もう寢たのかしら？』

五寸程しか開いてゐない、戶の透間から漏れる薄い燈影に覗きよつた弟の袖を引いて、私は家に歸つて來た。

貰つて了へばもういゝと思つて、挨拶にも來ないんだらふ？

さう言つてゐた三日目の晩になつて、倉田は新婦を伴つて遣つて來た。二階に新婦を伴つた倉田は、あたふたと階下に行つて、何か母に話してゐた。が、やがて心配さうな顏をして、母と一處に上つて來た。倉田の顏色が沈んでゐた。私はすぐとその理を讀むことが出來た。

『何うだね居られさうかい？』

と、さう言はれた新婦は、物言ひたげにしてしばし默つてゐたが、思ひ切つてをず〱言つた。

病人の世話をする手數は、てんから覺悟で來たのだけれど、寢て居乍ら細かいことにまで指圖をして、苛苛されるには困つて了ふ。煮物をするにしても、七厘

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を枕下に持ち運ばして監視して居るし、菜を取り分けるにも、不自由な體で居乍ら自分手でやらふとするので、堪らなく遣りにくい。馴れない自分がまごまごすると、口の利けない病人は苛々するので、尙更をど〳〵許りしなければならない。

　さうした苦情を、加減し乍ら彼女は母に訴へるのであつた。

『それ程とは思はなかつたね。』

　私等三人は、目を見合せて困つて了つた。彼女の手前などんかとりなして貰いたさうに、つくねんと困り切つてゐる倉田の顏も、私等に氣の毒さうだ。けれど、彼女には尙更の氣の毒さを感じないではゐられなかつた。

『病人だから炊事なんぞに迄世話を燒かないでもよささうなものだが、何ういふ氣なんだらふ？』

『…困つたね、そんなだとすると、萬事がそれなんだらふから…』

『…眞實にやりにくゝつて困りますの…』

『……………………』

　さう言つてゐても、果てしがつかないことを思つた母は、不治の病人のことだから、もう永いこともなからふから、と、ひたすらに居て貰ふことを賴んで、倉田の爲めに種々にとりなした。が、彼はたゞ困つた顏をしてゐた。

『あなたに逃げられて了ふと、此の倉田さんが可哀想だから、それを思つて辛抱してゐて下さいね。もしまた不足のことがあつたら、私の方に言つてくれさへすれば何うにでも注意するから……』

　汗を流す迄になつて言つた母の手前、彼女も強いことも言へない破目になつた。彼女の思ひ返したらしい光明がやつと見えたので、私等はほつと息をついた。

『僕が此からは出來る丈けおふくろの方をするから……』

　倉田は彼女のまへに手を突かぬばかりにして賴んだりした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『それがい丶ともさ。』
母は力をいれて言つた。
やがて二人は仲よさ丶うに歸つて行つた。
が、私等は心配になつた。女が當人の倉田を嫌つてゐる樣子のないのが安心だけれど、母親の爲めに逃げられでもしたら、もう倉田の嫁は容易に來なからふと思はれた。
『――君が居てくれなければ僕も一處に家を出て了ふよ――と言つたのは倉田としては大出來だつたね。』
倉田が私等のまへで彼女にさう言つた樣子を似ねて嗤つた弟は。翌日小石川の叔母の家に行つて、彼の母によく言つて貰ふやうに話して來たりしてゐたが、まだ安心がならないかして、また直接母親に注意して來たりしてゐた。
四五日經つても嫁が逃げた話もなかつた。この分ならば居つくだらふと言つてゐると、朝早く突然遣つて來た倉田は役所に出てゐても、留守が心配になるので毎日早退して來てゐたが、今日は彼女の舊主人の處に挨拶に遣つたことを話した。彼の話の節々から、彼が其の後ち出來る丈け家事を手傳つて遣つたり、逃げられない樣についてゐたらしく察せられた。
『それなり歸へらないやうなことはなからふか』私は掛念になつて言つた。
『さあ――……』
倉田にもまんざら安心もないらしい。
『荷物なぞを片付けて行きやあしなからふか』
『心配は心配だね。』
私と母は、目を見合せ乍らかたみに言つた。
『……片付てもゐたやうでしたが……』
倉田に不安の色が濃く現はれた。
『どんな風だつたね、歸つて來さうかね。?』
『別に?……正午には歸るつて行きましたが……』
逃げられさうな心當りが、次第に思ひ出されて來たらしい倉田は、微にふるゑ乍ら、をど／＼して母の顏を覗つてゐた。
『まつたく爲樣がねいからな逃げられちやあ』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『…何うだらふか？』

『大丈夫とも思はれるが、安心してもゐられないね。』と、かう話合つてゐた母と私は、同じ様に『その主人の家に迎へにでも行つて見たら。』

『何うせ今日は休みならば…』

と、急き立てるやうに言つた。

『さうですね…一つ行つて來るとしませうよ。』

思案してゐた倉田は、いつにない決心の色を確く見せて起つた。

『それがいゝよ、して、もしかなんだつたら是非一度は連れて歸るやうにね。』

『ゑゝ。』ときつぱり倉田は言つた。

外出て行つた彼に、何物にも代へ難いものを追ふやうな強い熱誠が充ち切つてゐた。（完）

女子修養塾 青葉の舍設立趣意書

地方の御婦人中、色々の御事情から、上京して職を求めねばならぬ方で、新眞婦人社に依頼して來られる方が次第に增えて參りました。又一方東京に於ける知合の方から『人がないか』と云つて尋ねられる事も次第に多くなつて來ました。之れまでとても出來る丈け御世話なして參りましたが、僅に手紙で知れる丈けの人を御世話するのですから、心苦しい場合と御小言を頂く場合も御座いました。一方職を求めらるゝ方には何んとかして御世話してあげたいと思ひながら、便利な組織のない爲めに、ほんの暫らくの月日の事で適當の職業を見失はねばならぬ樣な事が御座います。手紙で地方に紹介してゐる中にもどうかして、寄宿舍樣のものを設け、地方の御婦人で上京したいと云ふ方は兎も角御引受して一先づ之に收容し、御本人を見た上で、それ〲適當と思ふ所へ御世話し且つ職業婦人にならうと云ふ方々に、必要な心得を御話し職業婦人の出會ふ道德上の危險も保護いたす事に致したいものと祈つてゐました所が愈々其の時が參りました。どうしてもさうしたいと云ふ決心がつきましたから、皆樣に御願して其の設備をするについての資金と維持費の中に、應分の御寄附をして頂きたいと存じます。

青葉の舍規約

一、職を求むる婦人、學資の足らぬ婦人、求職者其の他の相談に應じ、職業の周旋を爲すと共に、場合によりては一時本舍に收容保護するを以て目的とす。

二、本舍が御世話せし人々を會員とし、會員は其の目的を達せし後、本舍へ任意の感謝金を寄附すべき義務あるものとします。

三、本舍の經費は、會員の感謝金と、名譽贊助員の寄附金を以て支辨します。

四、本舍の報告は、凡て新眞婦人誌上で發表します。

青葉の舍贊助員氏名

新渡戸稻造氏、高島平三郎氏、與謝野晶子氏、吉岡彌生氏、戸野みちえ氏、宮武はる氏、東大寺太代氏、小林夏子氏、中村久六氏、中島鎌太郎氏、橫山幸次郎氏、古谷精一氏、石川貞吉氏、高島米峰氏、伊藤きん氏、鈴木精二氏、武居傚十郎氏、逸見斧吉氏、伊藤きん氏、遠藤はつ氏（次第不同）

贊助金受領報告（二）

一金五圓（伊藤きん氏）一金五圓（遠藤はつ氏）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手紙の中から

矢島楫子様より

三澤千代野事件

婦人矯風會は此度、法廷にて審議せられんとする、三澤千代野事件に關し、貴下の御同情と、道德的援助とを與へられんことを懇願致候、此度の事件によりて確立せんとする要點は左の二項に御座候。

一、女子は借金の爲めに法律上其身の自由を奪はるることなし。

一、女子の身を汚さしめしものは無罪なるを得ず。

日本の法律にはこの二點を含む條文此あり申候、然し今日に到るまで、殆んど有名無實の姿にて打ち過ぎ居り申候、私共は此度の事件により此の法文を活用して、此後の凡ての判決が此の例に倣はんことを切望仕候。

事件の概略は左の如くに御座候、三澤千代野と申す者、母は寡婦にて橫濱にて古着商を營めるもの、十八歳の時、千葉縣の旅人宿に下女として送られ申候、其節傭主は仕度金として金四十圓を強ひて渡し、之にて衣服を調へしめ千代野を伴ひ去り申候、然るに行きし先きは料理屋にて、其夜より客に侍せしむるのみならず、醜行を爲す家なるを見て、千代野は驚き、翌朝逃亡を企てたるに、捕へられ、毆打監禁せられ候、二日の後主人は千代野を茨城縣の一料理店に轉賣致し候、此處にても同樣の事あり更らに三度賣られて古屋ゐいなる旅人宿に行き、今度こそは眞に宿屋かと安心せし間もなく、主婦は泊客に身を提供することをせまつてやまず、友もなく金もなく詮方盡きて遂ひに身を汚すに到りしとの事に御座候、此間中何回となく千代野は母に手紙を送つて助けを求め候、然し母には借金を拂ふ力なく傭主は借金を拂ふまで娘を手放し不申如何ともする能はず空しく日を過し申候。

斯くして事件は嘗て千代野が學びし日曜學校教師、スミルザー氏夫妻の手より慈愛館々主ペンロッド姉の知る處となり申候、ペンロッド姉は館內の一教師を送りて千代野を受け取らんとして果さず、更らに法律に明るき基督信徒なる池田晨氏を送つて之を伴れ來らせんと試み申候、然し其時は千代野は更らに轉賣せられ居り、其行先きを探知し、警察の保護を求め、母よりの委任狀を得て行きしも、警察は一指の力も之に借さず、失敗は又繰り返され申候。

其頃、日本人、西洋人各同數の委員は擧げられ、內務省にゆきて、千代野救濟についての方法を尋ね申候、其時內務省は答へて、「行きて連れ來られよ、借金は借金なり、然れども女子を其質として止め置くことは不法なり」。それのみならず、內務省より茨城縣知事に內命を發して、此の事件に注意を拂ふことを求められ、知事も亦活動せられ申候、ペンロッド姉は池田氏と共に復々茨城縣に赴き申候、娘は此時又更らに轉賣せられ居りしに關はらず、警察の命により傭主諸共出頭し、娘はペンロッド姉に引き渡され、慈愛館內に收容さるる事と相成り候。此の救濟は大正六年十二月に行はれ申候。

此の一女子を救ふ事に於て經驗せし多くの困難は、今後同じ境遇にあつて苦しむ女子の爲めに是非とも門戸を開き置く可き必要を痛切に感ぜしめられ候。思ひ掛けなき救ひを得て喜びし親娘は、今後の爲めにこの事を公にするを厭はざる旨を明に致候、依つて辯護士西村勘之助氏に依賴し、八ヶ月間に千代野を轉賣せし六人の內四人を告訴する事となり大正七年一月下旬西村氏はこれを下妻區裁判所及び水戸地方裁判所に告訴せられ申候、此の事件に關し下妻區裁判所及び水戸地方裁判所檢

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事は、罪狀微細なりとして法廷に出すことを拒み申候、斯る件を取扱ふ時は、縣下到る處に罪人を造る可く、又斯る事は、公然の秘密にて罪とするに足らずとの事に御座候、已に二件は區裁判所より、二件地方裁判所より取扱ふ價値なきものとし却下せられ申候。今後の處置は、更らに控訴院に訴ふるに在りと存候、私共は、

「處女をして身を汚さしむるものは罪なきを得ず」との法文の意を活用して、今後、醜業を厭ふ女子を救ふの道を開くは、此の度此等の人々に對して其罪を知らしめ、新判決例を作るに在りと信じ申候、依つて私共は萬障を排して此の事件の貫徹を務め居申候、就ては貴下に於ても此主旨に御贊同下され候はゞ何卒附記の陳狀書に、御記名捺印を賜り度此段奉懇請候也

大正七年六月廿五日

芳美様より

先つ頃は御面倒なる事のみ申上候にも不拘早速いと〳〵御親切なる御返書頂戴いたし誠に〳〵ありがたく御厚禮申上候實は親しく御眼もじの上にて何かと御指導仰ぎ度と存じ六月十七日はる〳〵岡山さして參り十八九日には御地まで伺ふ豫定に候ひしも岡山へ參り候處兄姉ども打寄りこの度は思ひ止まり今少し熟考せよ熟考の上正式に父上の御許しをも得て諸般の準備も整へかたき決心致しての上の事とせよ且つ結婚問題の方もあればとて許し呉れず、其内十九日先生よりの御便りも手許に回送されくり返し〳〵拜しまゐらせ候先生の御思召しの程もよく〳〵相判り申し候て、誠に有難く存上候近く夏休暇もあること故この度はさほどまで止め申候ものを無理に飛び出すもと存じそれより兩師範學校の研究發表會、學事視察いたし二十七日歸校いたし亦同じ學びやにいとし撫子導きをし申候、歸校早々御禮狀參らせ度と存居り候ひしも校務多端のためまことに心にもなき延引仕り今更御詫申上樣もをはさず候何卒寬きみ心にて思ゆるし給はり度候。

私いかにかして技藝の方面何にても修め度くと日夜思ひ煩ひをし申候この心、あはれと思召し若しよきよすがも有之候はゞみ心にかけさせられ御世話なし被下度願上まゐらせ候私父も勉強ならば何にても許し呉れ申候まゝ如何なる苦勞をも不苦候と年を加へ候へば亦思ふ樣にもなりかね申すべくたゞ日夜心のみあせり居申し候胸中御推もじ願上候。

先は延引ながら言の葉つくせぬ御禮と重ねての御願ひまで申上候時節柄何卒御身厭はせ給ひて尊き道のための奮勵を祈上げまゐらせ候かしこ。

（猶々雜誌新眞婦人御都合も相つき候へば引續き御送附願上度代金は振替にて御送り申上べく候）

小島様より

一筆申上候

靑葉のかげいとなつかしき頃と相成候御社益々御隆盛の御事と存上候さて私事はからずも御社發行の新眞婦人拜見致し候に色々職業等に御力ぞへ下され候よし御言葉にあまへ是非是非御願申上度突然にて誠に失禮とは存じ候へ共右御願申上度御願に及びし樣の次第御了承下され度候私事一家は永らく朝鮮に居住致をり父は官吏にて家庭には何等支障之なく勿論生活の不安等は之なく相暮をり候私事は其父母のもとに三人の兄の下に只一人女子と生れ父母の愛を身一つに受けて成長いたし候されど父は職務上突然朝鮮に參る事と相成り候其ため勉學の都合上私事のみは只一人都の土地にとり殘され叔父夫妻の許に成人致し小學全科をおへたゞちに師範學校に入學昨年卒

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

致し其後は叔父の許に有りて只管職務に勉勵いたしをるものに御座候右樣の境遇に成長いたせしとは申すものの幼きより男兄弟中の女なる一人とて愛深き父母よりは蝶よ花よといづくしまれさて叔父夫妻の許に參り候へば子なき叔父夫妻には慈父母にまさる愛もて育てられ候誠に至大の幸と申し候はんか。

されど人間にはとかく辛苦せざるものには其人物の一面には缺陷の之有り候ものとか聞及びをり候其例にもれず自分にもとかく愛になれて世間の辛苦荒波を知り申さず。又五年間の寮の宿舍生活は所謂女學生風にて世に處する眞實の婦人の資素にかけ誠に遺憾に存居候この頃時折叔父等よりも女子は一度は遠からず必ず親をはなれねばならぬものだと戒めらるる度に深く思ふ事之有り何とか着實なる働く處のまぢめな世間を見ならひ又世間の辛酸をなめて見度き考に御座候。

それにつき左樣な機會は私達にとりては休暇を利用するより外之なく候まま此七月二十一日より八月末日までの休み中何か他家の女中なりと又事務員なりと何なりとよろしく候まま御使ひ下さる所は之なきものに候や候ず專心奮勵努力最善をつくし度き考に御座候。

御諭を拜見致してこんな考を起し是非是非御指導あふぎ度候右何とか御とりはかり下され度幾重にも深く／＼御願申上候參上種々御指導仰ぎ度きは山々なれど左樣の事も出來申さず失禮とは存候へども手紙を以て右御願まで申上候何とぞ御きき給はり度幾重にも御願申上候御はずかしながら御子樣の（學校へ行かれる）御世話がかり等。又行儀見習的の奉仕等誠に喜ばしく事務等なればどんな所にてもよろしく候。

失禮の段もかへり見ず突然御言葉にあまへ先は右御願まで申上候。

七月六日

吉田さかえ樣より

西川樣の奧樣久しく御音さたもなく誠に失禮致しました皆樣もお暑う御座居ますか御變りは御座居ませんか御伺ひ申ます私は夫が今度京都の大學病院へ研究に參りましたでそれについて上洛致しましたが長い間の心身の過勞で一寸長引く病を得十日程前に明石の海岸で養生すべく來りました序ながらにして淡海をへて翠の島を見月出づれば老松の梢白銀の波を眺めげに病を醫するに最上の處を得申しました奧樣およろしくばどうかお子樣方と御見え下さいませ。

上田きみ子樣より

御暑きのみぎり皆樣御變りもあらせられず候や御伺申上候其後御伺致し度とは常に／＼存乍ら日曜さえも忙がしくて遂に失禮に打ち過ぎ申譯も無之候私事此の七月五日より當家に自炊致し候遞信省に勤務し居り候いづれ其內御邪魔致すべく御主人樣始め御子樣並びに花ちやんに宜敷御願申上候亂筆何卒御許し被下度候。草々

暑中御伺

略儀ながら紙上で暑中御伺を致し、皆樣の御健康を祈ります

西川文子

大阪

でお目にかゝりし方々に茲で其の御厚意に對して感謝致します。尙ほ大阪にての見聞は一切次號に掲載致します

西川光二郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川光二郎主筆

自働道話

平易簡明に、實踐道徳、新道徳を説く雜誌にして、

八月號の要目下の如し

隣人の交際、立志(西川光二郎)國民的良心の陶冶(高木信威)鐵道と公衆(笠松愼太郎)

▲菊版二十六頁
▲一部郵税共六錢五厘
▲一年同七拾錢
▲每月一日發行

新眞婦人合本 (自一號至十二號) 定價郵税共一圓

合本第二卷 (自十三號至二十四號) 同

合本第三卷 (自二十五號至三十六號) 同

合本第四卷 (自卅七號至四十八號) 同

職業教育が受けたい方は

若し若い婦人で、兩親から學資は出して貰へないが、體丈けは二三年許して頂けるから何か職業教育を授かりたいと云ふ方が御座いましたら御相談下さい、本社の賛助員の方で教育して下さる方が御座いますから。

新眞婦人社

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け

(1)職業を求むる御婦人

(2)職業の撰擇に迷ふ御婦人

(3)家庭及び一身上に苦悶ある御婦人

(4)結婚の事

等の御相談に應じます。

▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後四時頃御出で下さい。

なほ右の件につき手紙で御相談下されば、直接又は誌上にて御答へすることにいたします。

新眞婦人定價表(每月一回一日發行)

一冊(郵税共)拾參錢

半年分(郵税共前金)七拾五錢

一年分(郵税共前金)壹圓四拾錢

◎新眞婦人廣告料 特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正七年七月二十八日印刷納本

大正七年八月一日發行

發行兼編輯人及印刷人 本郷區駒込動坂町三二七番地 西川文子

印刷所 本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込動坂町三二七 新眞婦人社 郵便振替貯金口座東京一二四五五六

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA